

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 3 月 29 日

仕事の内容	金婚祝状贈呈事業			
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係 課長名 伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 2	-
【施策名】 高齢者保健福祉の推進	総合計画書 (ページ)	51	

予算名	款 3 民生費	項 1 社会福祉費	目 3 老人福祉費	事業 5 高齢者慶祝事業
-----	---------	-----------	-----------	--------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。	① ①の対象数や量を、あらかずもの(対象指標)
	市の区域内に居住し、住民基本台帳に記録されており、婚姻届出50年を経過した夫婦。	対象者(婚姻届出50年を経過した夫婦)が毎年度どのくらいいるのか把握することは困難である。
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]	② ②の状態になった数・量をあらかずもの(成果指標)
	祝状を贈呈し、金婚を祝うことにより、市民の高齢者に対する敬愛の精神と高齢者福祉について理解と関心を高め、高齢者自らの生活意欲の向上と生きがいの増進につなげる。	対象指標が不明なため、成果指標は活動指標と同数になる。
	③ そのために何をしましたか。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)
	東大和市において金婚を迎えた夫婦を祝う。全部事項証明書(戸籍謄本)又は外国人の場合は婚姻届受理証明書を添えて申請する。月1回程度、大安や友引の日を選び、支給決定された夫婦に対し、祝状を窓口において支給する。	支給者数。この活動指標を増やすために、申請できる期間を2年度間とし、市報に年複数回掲載し、ホームページでも周知して、該当になる夫婦にはできる限り多く申請してもらうように積極的に事業展開をしている。

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標	
2 指標の推移	対象指標	①の数値	組	-	-	-	-	
	成果指標	②の数値	組	27	42	49	-	
	目 標	②の目標値		-	-	42	49	49
		目標値設定の考え方	前年度実績と同様に設定した。					
	活動指標	③の数値	組	27	42	49	-	

3 経費	事業費(実績)		円	119,814	94,134	144,383	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	119,814	94,134	144,383	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.05	0.05	0.05	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	413,350	412,650	412,200	
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
事業費+人件費		円	533,164	506,784	556,583		

この仕事における市の裁量	市の裁量は大きい
--------------	----------

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	昭和58年4月開始。当時、高齢者人口の増加に伴い、在宅介護サービスの拡充が求められていたことを背景に開始された。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	
	年度により申請数に増減はあるものの、高齢化が進む中で、常に一定のニーズがあると考えられる。	

仕 事 の 内 容	金婚祝状贈呈事業					
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名	伊野宮 崇

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について					
	特になし					
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）					
	取り組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点					
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容					
	祝状の贈呈日は、結婚50年目を迎えた日以降になることがきちんと伝わっていないことがある。近年、金婚式を行うことが一般的ではなくなっている。					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。					
	申請の時に、配布資料と合わせて、必ず口頭で支給できるのは結婚50年目を迎えた日以降になることの説明を徹底した。					
8 今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題					
	特になし					
	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）					
	現状維持が妥当					
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等					
成果	特になし					
	(3)改革・改善案による期待成果					
	上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。					
成果	成果を維持する。			経費	仕事の経費は維持する。	